活用できる
防災ガイドラインをつくるために

近未来保育研究所　松山益代

震災からの学び

- 自園の災害マニュアルの見直し
- マニュアルからガイドラインへ
- 活用できる
  防災ガイドラインとは
- 知恵を出し合う、提案する、
  職員と共有する

慈紘保育園の大震災を想定したマニュアル

基本とした事

- 広域避難先には、行かない
  デメリットが大きい
- 保育園で子どもを守る
  子どもが安心できる
- 保育園で炊き出しをする
  とにかくお腹を満足させる

大震災を想定したマニュアル

域避難先には、行かない
保育園で子どもを守る
保育園で炊き出しをする

日常の避難訓練
災害時園児所持

外の物置に
　　非常食９００食
　　水　500ｍｌ　100本

手漕ぎの井戸と風力発電

炊き出し用品

- まかないくん　１基
- かまど　２基
- 発電機　１基
- 炭・薪

子ども用　緊急連絡カード

子ども用　避難袋

避難訓練

- 毎月炊き出し訓練
- 様々な時間帯で実施
- 最少人数の職員で実施
- メールの一斉送信訓練
- 職員間のメーリングリスト

本部（災害発生時）
指揮：園長
代行（羽田野・横堀）

1
園児避難誘導
（全職員）
- 靴・頭巾の着用
- 安全地帯への避難
- 点呼
  緊急連絡カード装着
- 怪我の確認・処置
- 避難場所へ移動
- 引渡し時には
  - 頭巾貸与
  - 緊急連絡カード装着
  - 避難袋装備

2
情報収集・保護者
（横堀・羽田野）
- 火災・けが人の通報
- ラジオによる情報収集
- メール一斉送信
- 乳児から電話による報告
- 引渡し表掲示

3
防災・炊き出し
（広瀬・羽鳥）
- 安全確認
- 炊き出し場所の確保
- 水・燃料確保
- 炊き出し

マニュアル見直しの視点

マニュアル通りにできなかったこと

- **靴を直ぐ装着できなかった**
- **安全な避難誘導**
- **保護者への連絡**
- **安全地帯での非常食準備**
- **避難袋持ち出し**

当園のマニュアルの問題点

なぜ用意するのか、共通認識と理解できていなかった

自己判断を期待した

状況判断を想定していた

新たな課題

「マニュアル」の解釈

１　機械・道具・アプリケーションなどの使用説明書。取扱説明書。手引き書。

２　作業の手順などを体系的にまとめた冊子の類。

３　操作などが、手動式であること。

大辞林より抜粋

新たな課題

マニュアルとは

すぐ動ける

その通りに動けば間違えがない

明文化された手順

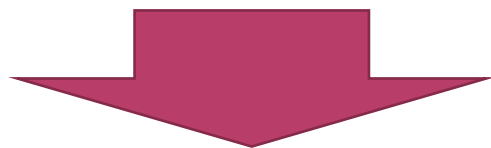
組織に属する全ての人に必要

新たな課題

近未来保育研究所からの提案

完成させない

「自分で感じて考えて行動できる」

余力をもつ

「ガイドライン」という行動指針

当園のマニュアルの問題点

なぜ用意するのか、共通認識と理解できていなかった

自己判断を期待した

状況判断を想定していた

マニュアルの領域を超えていた

活用できる防災ガイドライン

他人事にしないで、

自分事に置き換えて考え合う

非常勤・パート職員を含む

全職員が共通認識

＊避難誘導の手順

＊災害用備品

＊備品の使い方

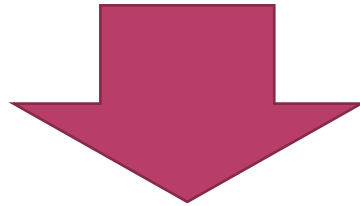
本部（災害発生時）
指揮：園長
代行（羽田野・横堀）
1
園児避難誘導
（全職員）
園児
靴・頭巾の着用
職員
靴・災害用ポーチ着用
保育室の安全地帯への避難
2階：ホール中央
余震がある間は移動しない
給食室は乳児誘導
乳児2名対職員1名で階段を下りる
乳児はおぶい紐で背負う
1階：ホール中央
点呼
緊急連絡カード装着
怪我の確認・処置
指揮者からの指示で
避難場所への移動
さくらんぼルーム・おひさまるルーム
東園庭
引渡し時には
頭巾貸与
緊急連絡カード装着
2
指揮（園長）
情報収集・保護者
（横堀・羽田野）
火災・けが人の通報
避難場所の決定・指示
ラジオによる情報収集
引渡し表掲示
携帯用HPに情報開示
3
防災・炊き出し
（広瀬・羽鳥）
15時の時点で交通機関が不通
15時以降に発生した場合
安全確認
炊き出し場所の確保（東園庭）
水・燃料確保
炊き出し開始

活用できる防災ガイドライン

想定外を減らす

- 園長の知恵の限界
- 園長としてのプライド
- 職員も知らない
- 保護者と協議

活用できる防災ガイドライン

- 他人事にしないで、自分事に置き換えて考え合う場
- 自分で感じて考えたことを発表できる場」

- 場づくりの技術が必要
- 情報交換し合う場が必要